

Nagoya Urban Institute News Letter ニュースレター



旧笹島貨物駅(名古屋市鳥瞰図1936)

名古屋都市センター

2017.10 vol.108

[特集]

明日へ、世界へ 「ささしまライブ24」

Contents

[特集] 明日へ、世界へ「ささしまライブ24」	1~3
PERSON	4
なごやのまち今昔	5
調査研究	6~7
まちづくり活動支援	8~9
まちづくり来ぶらり	10
活動報告	11
お知らせ	12



グローバルゲート(提供:株式会社エスエス)



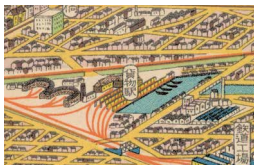
愛知大学 外観パース



JICA 外観パース

36階建てグローバルゲートの全面開業で「まちびらき」

名古屋駅の南約1kmに位置する旧国鉄笹島貨物駅跡地が、先進的な都市空間「ささしまライブ24」地区として再生されています。1986年の笹島貨物駅廃止後、長く利用されてこなかった12.4haの跡地とそれに隣接する中川運河の堀止周辺が、大学、国際協力機構、ビジネス・商業施設などの進出により、新しい名古屋の玄関口に生まれ変わろうとしているのです。その中のランドマークともいえる、地上36階建ての高層タワーなど3棟からなる「グローバルゲート」が、2017年10月に全面開業。それに伴い、記念のイベントが開催されました。1999年に名古屋市が同地区の土地区画整理事業を都市計画決定してから、20年近い歳月が経過しました。「国際歓迎・交流の拠点」をコンセプトに掲げる、新しい名古屋の都市空間誕生の背景と経緯、その概要と意義について考えてみました。



[特集] 明日へ、世界へ「ささしまライブ24」



旧国鉄笹島貨物駅 1960年代撮



笹島貨物駅廃止後 2006年撮



「ささしまライブ24」地区 2016年撮



「ささしまライブ24」の位置図

歴史を歩んだ、水運、陸運の拠点 「旧国鉄笹島貨物駅」

笹島貨物駅周辺が名古屋で大きな役割を果たすようになったのは、1886年に官営の鉄道駅が建設されたのを契機としています。場所は現在の名古屋駅から500mほど南に位置する笹島交差点の周辺エリア。当時は葦の生い茂る沼地と田んぼが広がる湿地帯でした。

鉄道駅は「名護屋停車場」（以下、名古屋駅）、あるいは笹島に置かれたことから「笹島ステーション」とも呼ばれました。市制施行により名古屋市が誕生したのは、それから3年後の1889年です。1898年には名古屋電気鉄道（私鉄の名古屋鉄道と名古屋市交通局の前身）が、広小路に笹島町と旧愛知県庁（現在のオアシス21付近）を結ぶ路面電車の運転を開始しました。

1932年には中川運河の開削整備が完了。当時「東洋一の大運河」と呼ばれたこの運河は、それまで川幅や深さなどが不足していた堀川、新堀川などに替わって、名古屋駅と名古屋港をつなぐ新しい物流運河としての機能を果たすようになりました。こうして笹島貨物駅周辺は陸路と海路を結ぶ中継点となり、名古屋だけでなく中部の発展にとっても大切な役割を果たすようになったのです。

名古屋駅は乗客と貨物の両方を扱っていました。しかし、やがて乗客と貨物の急増に対応できなくなりました。そのため、1925年に稲沢操車場を開設し貨車組成を分離、1937年に線路の高架化とともに乗客用の駅が現在地に移転、貨物の取扱は「笹島貨物駅」として、現在の「ささしまライブ24」地区に重なるエリアに移転し、水運・陸運の拠点として発展したのです。しかし日本が高度成長期に入るとトラック輸送などの発達により物流拠点としての機能が徐々に低下。1986年に業務を名古屋貨物ターミナル駅に譲り、駅は廃止となりました。笹島貨物駅跡地は都心に残された大規模未利用地として、新たな活用が期待されるようになったのです。

新たな交流拠点の誕生

名古屋市は、その跡地活用のために2000年本格的な土地区画整理事業に着手します。それに伴い、この地区の土地利用の方針を大きく転換させています。笹島貨物駅に代表される従来の「物流を中心とした土地利用」から、「商業・業務を中心とした土地利用」に舵を切ったのです。

これにより「ささしまライブ24」地区の開発は、本格的に動き出します。2004年には地権者等で「ささしまライブ24まちづくり協議会」を設置。共通の価値観と相互協力のもとに、魅力あるまちづくりを本格化させます。またその年、名古屋と金城ふ頭を結ぶ西名古屋港線（あおなみ線）が開通。「ささしまライブ」駅が設置されました。2005年には笹島貨物駅跡地が、日本国際博覧会「愛・地球博」のサテライト会場として利用され、350万人を超える入場者数

を記録。貴重な大規模空間の価値の高さを、再確認することになったのです。

名古屋市は、長期総合計画「名古屋市新世紀2010」で、「ささしまライブ24」地区を「国際的・広域的な商業・業務機能などの集積を誘導し、国内外から訪れる人々や市民でにぎわう、交流の場を提供する『国際歓迎・交流の拠点』の形成をめざす」と位置づけています。

開発コンセプト

- 「国際歓迎・交流拠点」の形成を目指した、にぎわいのある複合型まちづくりを進める。
- 「交流」「環境」「防災」をキーワードとしたまちづくりを推進する。
- 名古屋駅地区のビジネス支援と、ポートメッセの支援の役割を担う。
- そのための機能として、①宿泊・コンベンション ②商業・業務・文化 ③公園・親水空間 ④住宅 の導入を図る。

新たな水上交通の実現を目指して

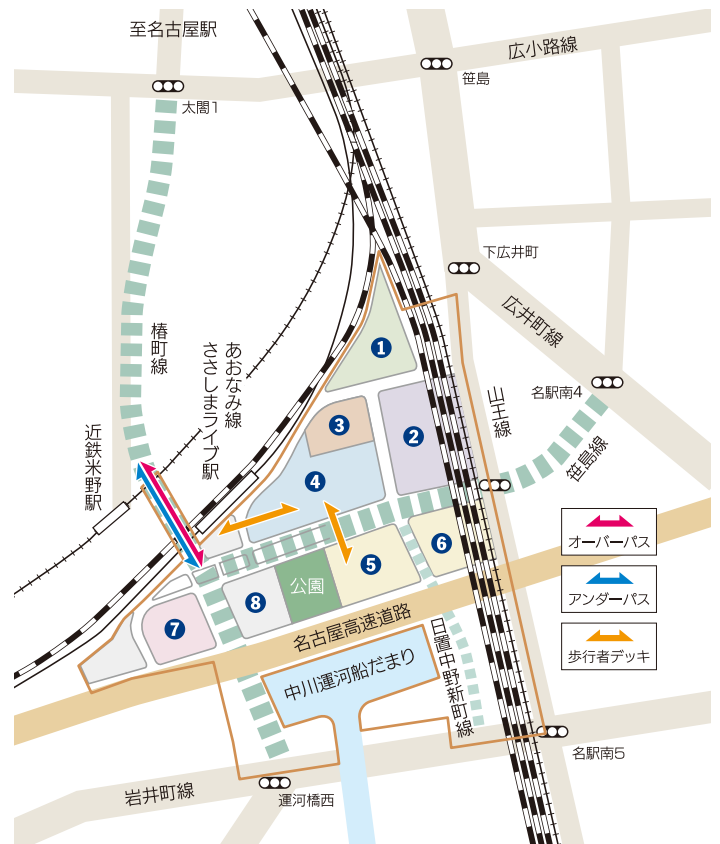
名古屋市は、中川運河で新しい水上交通を整備する計画を進めています。レゴランドがオープンした金城ふ頭と、「ささしまライブ24」地区にある中川運河堀止に乗船場を設け、中川運河、堀川、名古屋港などを連絡し、歴史資産や拠点をめぐる新たな水上交通網の実現をめざしているのです。

「ささしまライブ24」は、その地区内にとどまらず陸上、海上の多彩な交通や、観光・交流施設などともリンクしながら、広く魅力を発信し国際歓迎・交流拠点として、また新たな名古屋大都市圏の玄関口にふさわしい魅力と活気に満ちたまちをめざしています。

ささしまライブ24まちづくり協議会

「ささしまライブ24」地区の開発に関するコンセンサスを形成するために、2004年、同地区の土地所有者等により「ささしまライブ24まちづくり協議会」が設立されました。これはオフィス、放送局、大学、行政など多種多様な主体が連携し、国際歓迎・交流の拠点をめざす、まちづくり組織です。同協議会は、2007年に土地利用の方針と建築ルールを定めた「ささしまライブ24地区整備方針」を策定。統一的な景観づくりを進めているほか、エリアマネジメントによる地域価値の向上に取り組んでいます。

※図・写真は一部を除き名古屋市提供



「ささしまライブ24」地区の施設

番号	施設名称等	施設用途
1	THE ART GRACE (THE STRINGS HOTEL NAGOYA)	ブライダル施設・ホテル等
2	マーケットスクエアささしま	シネコン・アミューズメント等
2	Zepp Nagoya	ライブホール
3	JICA中部国際センター	国際交流・研修施設
4	グローバルゲート	事務所・ホテル・コンファレンス・商業等
5	愛知大学名古屋キャンパス	大学
6	愛知大学名古屋キャンパス(2期)	大学
7	ロイヤルパークスERささしま	賃貸住宅等
8	中京テレビ放送(株)社屋	放送局



親水公園